



第六特別委員會秘密會席上)

前南京總領事 須磨彌吉郎氏述(要旨)

對支政策
(要旨)

西安事變後の支那一般情況

昭和十二年三月 日本外交協會

0436

REEL No. A-0055

0534

本篇は管協會第六特別委員会秘密會に於て、須磨氏の講述したる要旨を筆録したるものにして、管協會維持會員に限り、閱讀に供するものなり。内容其の他の責任は管協會に在るものとす。

昭和十二年二月

日本外交協會調査局

0437

REEL No. A-0055

0535

目次

A 日支關係中心の四要項

- 一 我が對支壓力を輕視
- 二 列國の對支援助
 - ① 日ごましき英國の活動
 - ② 整然たる經濟參謀本部
 - ③ 英國は實際にやるのだ!
 - ④ 孔祥熙氏の日本觀
 - ⑤ 支那經濟への見えざる侵略
- 三 西安事件と統一運動

一八 一五 一一 一九 五五 二一

四 新支那を凝視せよ

- ① 青年將校ブロック
- ② 知識階級の國家運動
- ③ 廣東精神 || 客家運動

一八 一一 三三

B 支那から日本を見る

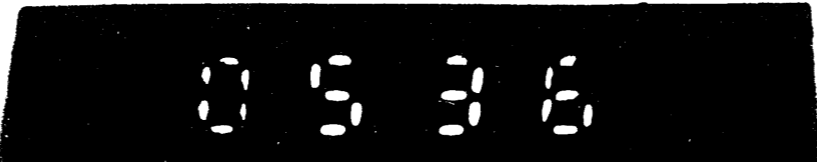
- 一 日本に對する三様の主張
- 二 之らくなつた支那
- 三 日本は確たる信念を持つ

二六 三七 三三

(目次終)

0439

0438



西安事變後の支那一般情況

前編 須磨 彌吉 氏 述

須磨 彌吉 氏 述

私は支那に足掛け十一年居って数日前歸つて参つた。併し今日まで歸る度毎に常協會に参つて其の時々の情況を報告してあるので、本日は極めて最近の支那に對する日本の關係に付て、雜談ではあるが、私の思ふ所を其の儘述べたいと思ふ。

A 日支關係中心の四要項

最近の支那の情勢と云つても餘り變つた情況はないが、西安事變が一つの契機になつて、斯う云ふことも支那にあつたのだと思はれるやな現象が色々現はれつつある。本日は最近の支那、殊に日支關係を中心とした支那に付て、四つの事項を述べてみたい。

一 我が對支壓力を輕視

第一に、支那は平々く云へば最近日本の支那に對する壓力を輕視して來た。もつと平々く云へば敵めて掛かつて來た。之は極めて顯著なる事實である。一昨年六月の北支に於ける色々な話合ひ、また其の十一月頃に所謂自治運動の問題などがあつたが、其の頃から北支に關する事項は、關東軍の管掌事項でなく、天津軍が北支に關する事を取扱ふことに決まつた。丁度其の頃から支那は日本を敵めて來た。私は私其の當時から言つて居つた事であるが、更に昨年の初頭に當つて其の傾向が非常に熾烈になつて來た。それは、日本は恐露痕と云ふか、ロシアを恐れる熱に侵されつつあると云ふことを、私自身が支那の院長からも或は二三の部長からも聞いた。日本はどうで

0441

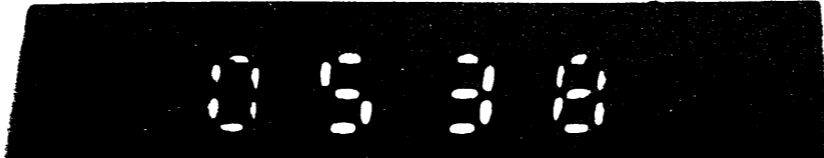
0440

あらうとも、とにかくさう云ふ反映を與へた。支那は自分が弱國で
折る。また今まで運んで居る國であるが故に相手國の状態をよく観
て、それに依つて色々政策を變へる。新聞辭令的に云へば、英を以
て英を制するの方針に依つて色々な態度を執るか、要するに相手方
の出方を観ることが支那の特長である。それに與へた印象が、日本
は最近恐露病に罹つて居る。支那は意を安んじて可なりと云ふ感想
に大体なつて來たやうである。この感想を持つた一年半の題、日本
に於ては支那の以上のやうな對策が誤らなかつたと裏づけられる事
項が次から次へと起つて來た。例へば此の一年半の間に色々テロ
行爲が起つた。成都事件の如きも其の一つであるが、色々な事件が
起つて、世が世であれば其の事件のどれ一つでも非常に重大なる結
果を起すに拘らず、日本の出方が今迄とは違ふ。従つて支那は事件
毎に實は非常に驚くと同時にまた非常に安心をして來た。今日話
が長くなるから其の實例は擧げないけれども、外交部長でも他の部

0442

長でも、よく我々に直接申したのであるが、支那が日本を致つて持
かつて居ると云ふ事實は、我々が日支關係に於て最も大きな事實と
して考へなければならぬと云ふことを痛感する。
一體此の壓力がなくなつたと云ふ事實は、實際から觀れば何であ
るかと言へば、實は其の以前に於て日本が支那の對岸に大きな戰艦
なり飛行機なりを集中して居つたのでもなければ、特別な軍隊を出
して居つたのでもない。この日本の壓力が減つたと云ふ感想を支那
が懷いた最も大きな材料は、日本國論の不一致である。私は特に南
京の第一線に於て感じたのであるが、私自身でも感じた位であるか
ら、支那側には之が大きく反映したと思ふ。言ひ換へれば、國力の
伸展と共に日本の國論が色々な分れて來た。その恐ろしい例を擧げ
れば、私が外交團の中で最も崇敬して居り、支那の外交團で最も古
い大使であるアメリカのジョンソン大使が、常に我々と雑談を試み
て居るが、最近一年有半に於ける日本の對支政策はナイロソフイ

0443



を失つた。」と言つて居る。我々に言ふ位であるから支那の要人などにも同じ事をジョンソンが言ふて居るのだらうと思ふが、「日本はフィロソフィーを失つた。何か起れば非常に慌てる」と言はれて私には實に恥しい感じがした。「西安事件が起つて最も慌てたのは日本ではないか。日本が最もよく事情を知つて居るに拘らず、あの事件の真相を掴み得ないで慌てた報道を新聞雑誌に出した事で觀ても解る」と申して居る。斯様に支那人のみならず支那在勤の外交家の頭にも斯様な印象が湧いて來たと云ふことは蔽ふことが出來ない。之は第一に擧げなければならぬと思ふ。

二 列國の對支援助

① 目ざせしき英國の活動

第二に、日本以外の列強の支那に對する同情よりして、支那に對して援助しても宜いやうな氣持が最近ハツキリして來た。殊に西安事件が之を促進したことは事實である。列強と云つても實は差があるが、其の最たるものは言ふ迄もなく英國である。イギリスの大使ヒューゲッセンは支那は初めてである。併しながら前のランポソン公使に彷彿たるアウトスポークンな、ストレイトフォワードな人であるから、よく話をする。その點に於ては前に居つたカドガンなどと違つて明るい感じのする人であるが、この大使の口を突いて逆る言葉は聴くと、實は日本は近頃如何にも悪圖々々して居る。支那も非常にじれつたが居るではないか。斯うなつては我々が支那でやる仕事を誤解されては困る」と言つて居る。最近の實例を舉げれば、信用保證部のカークパトリックである。之は一九二六年、今から十年ばかり前に東京の東中野の何處かに居つて日本の事情を研究して居つたことがあつて、日本の實情も非常によく知つて居る。このカークパトリックは、約一年有半前に支那の鐵道顧問として行

0445

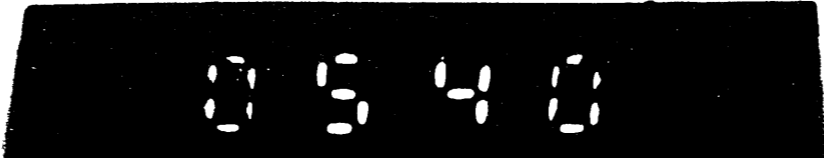
0444

ったハモンド少将の支那鐵道検査に關する報告に基いて、リースロスが先づ財政的計畫を拵へてそれを本國に歸つて色々な報告をした結果、具体的に色々な事業に對してイギリスが話を進めようと云ふので支那に行つたのがカークパトリックであるが、このカークパトリックは南京に着いた翌日第一番に私に會ふと云ふので、會つて遊して私は驚いた。この人はリースロスなどよりも一層明るい男で、之は私のみならず、孔祥熙も「あれはリースロスより偉い人だ」と云ふ批評を私に漏しした程であるが、このカークパトリックが開口一番私に言ふには「イギリスは、支那に於ける色々なプロジェクトに對して貸す金は制限がない、然らでも貸さうと思つて来た。而して其の各プロジェクトが、ビジネス・マインスマリ考へて良いものであるならば、つまり採算の採れるものならば、十年延拂ひで結構である。この覺悟をやつて来た」と云ふことを申した。それから三日経つて、私は孔祥熙に會つたが、その間にカークパトリックは私

0446

祥熙の所に行つて色々な話をしたやうである、即ち上海に上陸して六日目、南京に着いてから二日目に孔祥熙に會つて居る。「カークパトリックはリースロスよりもつと具体的な考を色々持つて来た。之をして色々なプロジェクトを知りたい」と言つたので、「南京に於ける揚子江に橋を架けたいと言ふことが鐵道部の長年の計畫であるが之はどうだらう」と言ふと「その案ならばジャードン・マディソンが作つて居る」と師座に答へたが、實にビジネスライクな男だ」と孔祥熙が言つて居つた。イギリスのヒューゲッセン大使に私が會つたところ「どうも其のプロジェクトが一番先に出来さうだ」と言つて居つた。之は驚くべき事である。今日支那ではジャードン・マディソンが一番先に立つて活動して居るが、斯う云ふイギリスが許へたプロジェクトが澤山ある。前に述べた如く、ビジネス・マインシスの上に立ち得る事業であるならば十年延拂ひでどんく材料の供給をしようと思ふ積りでやつて居る。

0447



②……整然たる經濟參謀本部

私がカークパトリックと會つたのはシャーン・マゼイソンの七階の七階であるが、それ以前の大階建のものに更に一階を加へて大きなビルディングを拵へて、其處はイギリス大使館の商務官事務所と云ふ名義になつて居つて、ビルといふ商務官初めタイピスト其の他事務の者が澤山居る。處が其處には、中央銀行建直しの爲に行つて居るロージャーズや、ホールパッチや、カークパトリック等が皆居る。英國の對支財政經濟活動の中心となるやうな人物は全部この一箇所に集まつて居る。ビルが私と親しいので、「今日は此のオフィスを見せろ。」と云つて見て廻ると、大きな室があつて其の真中に小さなラウンド・テーブルがある。「之は何をする所だ。」「會議室をする室だ。」その室に紐が澤山下かつて居る。何だらうと思つ

0448

て其の紐を私が引張つてみると、天井に澤山地圖が入れてあつて其の地圖がどんと落ちて来た。「そんな物を引張つてはいけません。」と叱られたが、見ると、私が引張つた一つは、ナチエラル・リソトセスより觀える支那。その次のは、オーヴァーホールを興する支那の鐵道と云ふのであつた。まづ紐が幾らも下がつて居つたから尚ほ色々な物が澤山あるのであらうが、カークパトリックが私に「プロシエケツを區分することは今出来なけれども、大体コンミユニケイション、シッピング、マイニング、この三つが大きなものだ。」と言つて居つたから、さう云ふものが其處に澤山集めてあるのだらうと思ふ。之を以て何も驚く必要はないが、斯様な仕組を觀ると、ともかくも英國の對支經濟活動の參謀本部と云ふ感じを受けれた。即ち英國の信用保證部の者も、支那政府の顧問も、英國の商務官も、皆一つのビルディングに納まつて同じ資料を基礎にして協力一致して居る。之に較べて日本の方はどうかと言へば、大使館で云つても商務官

0449

のオフィスは違つて居り、其の他、總領事館もあれば、鐵道省の代表
が居り、財務官が居り、逓信省の代表が居り、海軍の調査機關も極大なものがあ
り、軍の方でも調査機關を持つて居るが、之等が皆ばら／＼であつ
て一致してゐない。即ち列強の對支活動に並行するやうな組織に日
本は出来てゐない。この事が第二に特に言はなければならぬ事である。

③……英國は實際にやるのだ！

もう一つ附け加へて置きたい事は、英國はランプソンが来る以前
までは主として廣東で非常な排英のボイコットを喰つた。それをラ
ンプソンが廣東に乗り込んで、巧に卒濟探などと話を決めて、それ
以來支那に於ける排英運動を一變さした。英國はあの頃から、誰が
何と言はうと支那とは紛争を起さずに親交を行かうと云ふ肚を決め
た。昨年の夏、聖西の英國總領事の處に、支那のボイスカウトの

連中が入り込んで来て、庭の草花を折つてとか何とか云ふので、其の
總領事が支那人の頭を殴つた。そこで黨首の者が「斯んな總領事は
見送せよ」と騒ぎ出した。之は一悶着起りさうだと云ふので英國は

其の總領事に賜暇辭職を直ちに願ひ出さして之を更迭した。一例を
擧げればそこまで氣を使つて居る。とにかく支那との間にブリクシ
ンを起さずに段々親交に努め、時恰も良し、日本は實際に於てイギ
リスとは競争して居るが、さを競争し得ざる状態に置かれて居る。
その間に殆んど無人の境を行くが如く英國は對支經濟活動を開始しつゝある。リ
スロスバ日本に二度承た後の感想から言つても、彼は「日本は一体どうする積りか。
英國は英國其の他がやると、ジエラシーであり、然うば日本がはや
りになるのかと言ふと少しも御やりになうぬ。一体どつちに行くの
か。イギリスは實際やるのだよ」と卒直に私に言つて居る。

④……孔祥熙氏の日本觀

0451

0450

今度私は歸るので最後に孔祥熙に招かれて御馳走になりながら二人を以て話した。其の際孔祥熙が「支那は何も日本の經濟活動若くは財政活動を回避しようとするのではない。その證據には一之は此の席限りの話であるが」自分はお前に對しても日本から借款したいと既に大回も申込んだではないか。然るにお前は一遍だづつ色よい返辭をしたことはないではないか。此方はそれ迄して居るのに、少しも貸さないで、しかも他國がやれば日本は非常に騒ぎ出す。之はジエラシー以外の何物でもない。どつちかに決めて呉れ。やうぬ積りならば餘りむつかしい事を言ふな。言ふのならば何か實際やつて呉れ」と言つたが、この點から考へても、日本以外の國が支那に如何に力を入れつつあるかと云ふことが分る。而して其の代表的なものは勿論英國である。

もう一つ挙げなければならぬのは、ドイツが日獨防共協定で日本

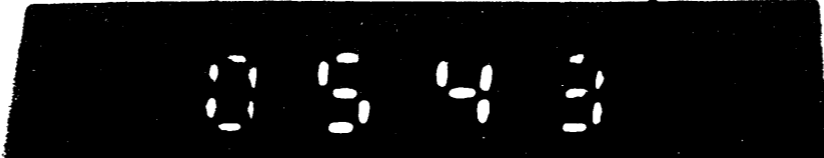
とは同盟の關係にあるやの觀があるが、ドイツのトラウトマン大使が「あの防共協定が發表された頃は顧問なども非常な動搖を起して、事によれば支那はドイツの顧問を遣出すのではないか」と云ふ話などもあつたのであるが、最近別れる時に「支那は健忘症だ、日獨協定の事はもう忘れて、最近ドイツと支那との色々な契約が出来つつある」と言つて喜んで居つた。また聞く所に依れば、鐵道材料や武器の契約等も最近獨支間に非常に成立しつつある。

⑤……支那經濟への「見えざる侵略」

斯様に日本以外の列國の對支活動、特に其の代表者とも謂ふべき英國は、財政經濟の各代表者が一致するのみならず、ロイターの如き大通信まで一致して、對支活動の陣容を整へて居る。私は、支那で一番活動して居るジャーゲン・マディソンの代表者、まだ僅かに

0453

0452



三十四歳のトーマス・ケズウィックは、「君等イギリス人は口を開けば日本は北支に於てインヴェイジョンをやつて居ると言ふけれども、イギリスこそはインヴェイブル、インヴェイジョンをやつて居るではないか」と言ふと、彼は「實際さうだが、然らば、確かに、確かにインヴェイブル、インヴェイジョンである。この状態の儘で進んだらば、今から数年後若しくは十数年後には支那の經濟の大衆たるコンミュニケーション、シツピング、マインングは或は英國の手に落ちてしまふかも知れない。現に幣制改革に伴つて色々な事が出来つつある。日本の對支貿易は本年は多少よかつたけれども、之は豊年に依る購買力の増加の爲に綿布・傘等が賣れたものであつて、しかし之等は所謂雜貨であるから、極端なる排日を蒙るれば一朝にして地を拂ふ性質の物である。然るに鐵道等の企業に對する投資は之に依つて寧ろ排外・排日を阻止し得るものである。茲に對支活動の要諦がある。

0454

三 西安事件と統一運動

第三に、西安事件を契機として支那の統一の傾向が極めて熾烈に外國側に印象された。列國の中でも英國は、國民政府の最も強い代辯者となつて支那の統一完成を叫んで居るやうであるが、西安事件が十二月十二日に起つて、十三日の朝、中央政治會議で方針が決まつて、その十三日の夜、之は非常な秘密になつて居るやうであるがヒューゲツセンが上海まで行つて、パーク・ホテルに泊つて居つたドナルドを訪れて、「蔣介石が生きて居ると死んで居るとのでは英國の對支政策の岐れ目だ、なんでも宜いから密に角もお前が西安に飛んで行つて、蔣介石の生死だけを確かめて來い」と頼んだ。そこでドナルドは十四日の朝、飛行機で西安に飛んで、十五日には西安から洛陽に戻つて、早速ヒューゲツセンに電報を打つた。之に依つて、ともかく蔣介石は生きて居ると云ふことが判つて、明けて十六

0455

日の朝、ヒューゲッセンは孔祥熙を訪ねて、^可蔣介石が生きて居れば英國はどんな事でもしてやる。言ひ換へれば、蔣介石を南京に連れ戻す爲に、或は蔣介石の身柄を保障しなればならぬのならば英國は巡洋艦(と言つたをさうであるが)かガン・ボートを出しても保障してやる^也と言つたさうである。それが元になつて十九日には、英國政府の命令に依つた形として日・米・佛・伊の四ヶ國に對して共同援助を申込んだ譯である。之等の英國の行動は、英國は支那を助ける、率直に云へば、蔣介石政府を見殺しにしては置かないと云ふ強い印象を與へた。而して西安事件以後、殊に英國が支那は、支那は實に偉くなつたものだ、ああ云ふ事件が起つてもビクともしないと言ふことを、各新聞通信等も言ふのみならず、代表者が我々に向つて言ふやうになつた。換言すれば、支那の統一と云ふことが外國人の口に依つて非常に宣傳されるやうになつて来た。この好機速すべからずと云ふので、黨部・國民政府が奪つて、西安事

0456

件を契機として支那統一完成のデモンストレーションを大々的に始めしたが、さう云ふ氣運を外國人も認めなければならぬ情勢に立ち至つたのである。

0457

四 新支那を凝視せよ

第四に、我々はもう少し支那人と云ふものを深く見詰めてやらねばならぬ時代になつて来た。支那は一昨年の十一月以來、軍備の充實、殊に軍事訓練に努めて来た結果、軍隊の格好、意氣込み等が全く一變しつゝある。特に支那の各方面の若い者が國家を背負つて立ち上つては来いかと云ふ氣分に非常に燃えて来たことは著しき現象であらうと見ふ。

①……青年將校ブロッケ



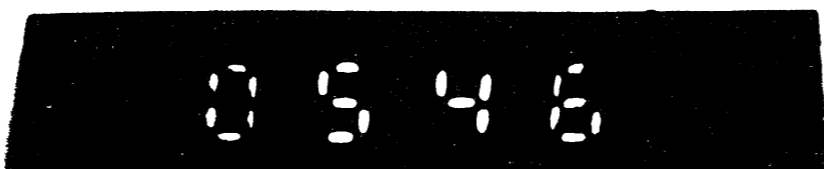
一昨年の十二月二十八日に、日本の五・一五事件にも當るやうな一つの事件が起つた、それはまだ唐有壬が殺される前であつたが、對日外交方針は、汪兆銘の如き軟弱な態度ではいけない。どうしても支那の國權恢復を以て進まなければならぬ、その爲には蔣介石の行政院長就任と共に此の國策を樹立しなければならぬと云ふ氣分が各方面に起つたが、特に濃厚に起つたのは軍官學校の若い青年將校の間である。之等の青年將校の間から八人の代表者が出て、十一月二十八日、勵志社の會合の後に蔣介石を訪ねて「對日戰備ありや、なければ一日も早く對日戰備を整へなければならぬ」と主張して、
「若し之が容れられずんば我々は學校を辭めてしまふ」と言つた。之に對して蔣介石は、斯う云ふ過激分子を學校に置いてはいけないと云ふので、非常な英断を以て、直ちに放校処分にしたさうであるが、之が抑との起りである。之には實はリーダーが居る。その一人

一九

0459

0458

は支那の兵工廠の廠長をして居る錢昌熙、もう一人は、昨年の春ドイツと支那との間に一億ドルのバーター計畫に行つて捺印して来た譚顯先(譚延闓の甥)である。この二人、及び支那の軍事委員會の中にある資源委員會、この資源委員會は作戰其の他色々な事をやつて居るさうであるが、この中には立派な幹部將校が居る。之等の者と前述の錢や譚がリーダーとなつて青年將校の一つのブロックが現在出来て居る。之が西安事件に際して非常に濃厚になつて来た。西安事件勃發直後の十三日・十四日頃は誰も真相が判らず、左を發學長が兵變を起して蔣介石を監禁したと云ふ事を知るに過ぎなかつたが、十六日に愈々討伐令を出した。この討伐令を出す迄には隨分色々な経緯があつたやうである。特に所謂宋家(外國人は多少耶穌教的に「ロイヤル・フアミリー」と云ふ)の宋子文・孔祥熙・宋美齡等は「とにかく此際は蔣介石の命を救ふことが第一であるから、討伐令を出さずと云ふ手荒い事をせずに、その前に極力救出策を講じたい」と



言った。之に對して雖も「蔣介石は蔣介石ではないか、中華民國といふ國家は別にあるのだ」と云ふことを自ら進んで言ひ得る者がなかつたのに、敢然と口を切つたのは、前述の錢と資源委員會の若い青年將校であつた。「蔣介石が殺されようが死なうが國家は廢然として存する」と言つた。之に續いて、その次に聞かれた中央政治會議で戴天仇や于右任が色々な事を言ひ出したが、その口火を切つたのは青年將校である。而して之等の青年將校は、何應欽の人格の政すところでもありうが、何應欽を常に立てて居る。宋子文や宋美齡に言はせると、何應欽が青年將校を煽つて蔣介石を倒す陰謀をやつたのだと言ふけれども、實はさうでない。

② ……知識階級の國家運動

之は一例であつて、單に青年將校のみならず、學生運動も仲々馬

鹿に出来ない情勢になつて来た。學生も、學問をやめて居る者ばかりではなくて、色々な革新運動とか國民黨の政組運動等をやつて居る。若い將校その他の連中にも同じやうな氣分が流れて居る。之には學問がある。その大きなものは、現在中央大學の學長をして居る羅家倫、之はアメリカ力出であるが、相當な勢力者である。この羅家倫は、革新運動をやつて居る連中を弟子に澤山持つて居る。なほ上海にある法學院大學の學長の裴則文、之等も先進運動者である。之等の連中のほかに、最近では新聞界、日本の同盟通信に當るやうな中央通信社の社長の蕭同滋の如きも、一方に於て蔣介石の信任を得て居ると同時に若い者の間に國家運動を勃興させて居る。この蕭同滋のほかに中央日報社長の程蒼波、この連中が集まつて、青年を中心とする國家運動を起しつゝある。恰もヨーロッパ戦後ヒットラーが出て来る魁け運動となつた青年運動の時のことを彷彿たらしめるものがある。之等の青年將校、青年革新運動者が氣脈を通じて、蔣

0461

0460

介石の如き所謂軍閥者流と雖も如何とも爲し得ない一つの勢力を造りつつある。之が革新運動の根源であるやうに感ぜられる。

③……廣東精神 || 客家運動

此等の革新運動の根源になつて居る精神は何かと云へば、廣東精神に基いて國權の恢復と國家の統一の二つをモットーとして澎湃たる勢を以て擴大しつつある統一救國運動である。前に舉げた革新運動者は總て廣東出身の者であるか或は少なくとも廣東に關係を有する人々である。しかも私が調べた所に依れば、客家民族に属して居る。私は廣東在勤中これを最も興味を持って調べて来たが、客家と云ふのは、今から千百年から千四百年ばかり前、大朝時代の一種のルンペンであつて、北の齊の時代に逐ひ出されて南へくと流れ来て来た民族の固まりである。客家を廣東語ではハッカ (Hakka) と稱し、昔か

客家と書いて居る。之を西洋の本で「北から来た客さん」と書いて居る。この客家が漢民族の文化を純粹に保存して居る。客家が現在話して居る言葉は大朝時代その儘のスポークン・チャイニーズであつて、彼等に言はせると「純粹の支那語を話して居るのは我々客家だけだ。其の他は滿洲語や蒙古語や色々な言葉が混つて墮落して居る」と言つて居る。今から七年前に汪兆銘や孫科も利用されて中心となつて大客家運動の團體が出来た。陳濟棠や陳銘樞等も客家の代表者である。私が研究した所に依れば孫文が客家だとも云へるのである。彼は、今の中山縣、昔の香山縣に生れた者で、春秋の筆法を以てすれば、孫文の革命精神は客家の精神であると言はなければならぬ。もう一つ、見方を變へれば、この客家運動は支那に於けるユダヤ人の運動である。この客家は廣東一帯に居るばかりでなく、私の計算に依れば、客家に属する者が支那全土に大体六千萬人居る。支那の貴業界の元師をして居る者には客家人が非常に多い。

0463

0462

例へば上海にある永安公司・大新公司・新々公司・新施公司等の大ききデパートメントストアのマネイジング・ディレクターは悉く客家である。従つてまた其處に使つて居る賣子は悉く客家語を話す。私は數年前、日本の某大學の學生監から聞いたのであるが、日本に留學して居る支那人で成績が一番になつたり二番になつたりする者は悉く客家人である。現在行政院の張棟若は、誰が見ても日本人としか見えない、日本語などは私よりも上手であるが、之も客家である。話が少し横道に入るが、客家は日本人と非常な共通性を持つて居る。先づ外觀が似て居る。客家精神と云ふのは江戸っ子精神に似て居つて、當うて碎ける式である。この研究を私が始めを動機は、上海事件に於て十九路軍が皇軍に對して何故あれだけの抵抗をしたかと云ふ疑問を懷いて之を調べると、十九路軍の九十パーセントは客家である。蔡廷鍇・陳銘樞・蔣光鼐・黃蕓萼、悉く客家である。客家スピリットと謂うてはいけなから私は之を廣東精神と謂つて

0464

居るが、之が支那に於ける統一運動の根本になつて居る。無論之は受難時代であつたのであつて、即ち十九路軍の時代、それから三坪前の福建に於ける李濟理・陳銘樞・陳友仁等の人民政府時代等、非常受難時代を経て今日に及んで居る。この精神が今や澎湃として錢・譚や青年將校の間に湧いて來つた。之は日本が餘程注意しなければならぬ。

0465

B 支那から日本を見る

以上の四つの事態が現はれて居る今日の支那に於て、支那の政局はどうか、支那の政府要路者の對日觀念はどうであるかと云へば、私は十一年間の支那生活を清算して愈々日本に歸ると云ふ譯で、張群・孔祥熙等と、思ひ切つて打明をしようと思ふので、話合つた事がある。之は實は日本の總理大臣及び外務大臣への傳言であるが

今回の政變で、誰君に第一に傳言することになつた。西安事件以後支那の政局は非常に變つて、茲に三つの主張が現はれて来た。

一、日本に對する三様の主張

第一は、楊虎城等の軍隊が唱へて居るやうな人民戦線を機軸として、之に依つて支那の内政及び外政をやつて行かなければならぬと云ふ主張である。この主張をする者は比較少數である。

第二の最も多い議論は、飽迄も對日抵抗をすべし、對日抵抗の爲には次の二つの事を回避してはいけぬ、一つは武力の抵抗、一つは武力からざる時には敢然として武力を以て立たうてはなからぬ、もう一つは、容共も避くべからず、つまり中國共產黨・ソ聯派と協力する。この二つを含む對日抵抗を主張する一派が最も大きくなつて来た。この派に屬する者の名前を参考までに挙げれば于右任・王陸一・戴天仇等である。

0466

三陸一は監察院の秘書長であつて、詩も作り、文も上手であり、辭も達者である。前に述べた運動の方にも入つて居るが、この三陸一の如きは對日強硬派の四天王の一人である。戴天仇も悪い人であつて、誰君の中には彼と知己の間柄の柳方も澤山あらうと思ふが、彼は口を開けば對日抵抗を叫んで居る。

第三は、之は孔祥熙が言ふのであるが、蔣介石・張群及び自分等の所謂蔣介石政權の主張であつて、日本とは成るべくブリクシモンを避けて、平等の立場を日本から認めて貰ひたいのであるが、この第三の派と雖も、對日抵抗は避くべからざる一つの氣運になりつつある。従つて之が第一及び第二の派に引摺られることは、支那として好まざるところであり、引摺られるは大變であるから、日本は是非これと助けて貰ひたい。私は十一年間も支那に居つて、支那の露筋から、ぜひ助けて貰ひたいと云ふ話を聞いたのは初めてであるから實は非常に驚いて、何の話だらうと思つて聞いてみると、

0467

その助けて貰ひたいことは、物質的に金を貸して貰ひたいとか武器を貰ひたいとか云ふことではない。日本から云へば寧ろ消極的な二つの事項である。一つは「日本側が過去に於て不法に作爲した既成事實を解消して貰ひたい。もう一つは、將來斯くの如き行動は繰返さない」と云ふことの保障をして貰ひたい。この二つさへ應諾して呉れるならば、第三の蔀小石を筆頭とする國民政府派がどん／＼やつて行きます。」と云ふ語であつた。もう一つそれに加へた事は、「この見地から云へば、冀察に於ける現状も支那は満足しない。支那は統一せる行政権の完成を期して居る。この統一せる行政権の完成より云へば、冀察の如きは最も不完全なる存在である。之を何とかして完全にしたい。而して之等の望みが達せられなければ支那は日本と話をする用意が今のところ無い」と言つた。之は私が述べた四つの感想から當然引出されることではあらうが、私にハッキリ言ふた

二 之がく、なつた支那

斯様に支那が、平たく云へば、強くなつて來てゐるのであらうが、思ふに云へば、のぼせ上つて來た。のぼせ上つて來た原因には、二つあらうと思ふ。その一つは西安事件、もう一つは殷遠に於ける被等の勝利である。南京の新聞は何れも今以て殷遠に於ける勝利を讀んで、毎日のやうに第一頁の最も目立つ所に「百億萬万歳」と書いて居る。斯う云ふ安っぽい被等の抗日感情より來たるのぼせ上つた調子も無論あるが、前に述べた四つの事項より英譯されるべき點を注意しなげればならぬと思ふ。斯様に支那の方が強くなつて來て居るがなほ一例を挙げれば、二年ばかり前の一月二十二日、私が東京から歸つた翌日、行政院長の汪兆銘が「滿洲問題は暗礁である。日支兩國の船が暗礁に乗上げると壊れるから、我々の船は避けて行かなければならぬ。少なくとも今はセツトアサイド論だ。だから之には觸

0469

0468

れないで總ての問題を進めなければいけない」と彼一流の能幹を以て私に言った事がある。それを最後として満洲問題に付ては、公武にも非公式にも支那の當路者から我々は未だ皆で聞いた事がなく、口を開けば『饒遠は困ります、山西に斯うして貰つては両ります』と云ふ程度であつた。然るに最近は何に一步を進めて、前に述べた如く、冀察の現状に對して不満であるとの傳言をし、なほそれのみに止まらず、名前を擧げることには特に控へるが有名なる其要人が私に『日支關係の調整の爲には是非滿洲問題を考へて貰ひたい。現状の儘では日支關係がよくなる見込は到底ない。その根本は滿洲問題である』と、滿洲問題をも被筆は持出して來た。『滿洲を一體どうするか』と反問したところ、『滿洲國などと云ふ國を持つては兩する。あれは何かの形で一度選して貰ひたい。さうしてイギリスに對するアイルランドの如くにして、或は少なくともカナダの如くオーストラリア・ドミニオンの形にして呉れさへすれば、現在日本が滿

0470

洲國との間に持つて居る地位なり結果等の總てのことには全然手を觸れないから、是非さうして呉れ。之をやらなければ日支關係は到底うまく行かない』と本氣で言つて居る。併し之を西安事件や饒遠事件ののほせ上りとのみ解釋することは危険である。私が前に擧げた四つの事項から出て來る當然の歸結である。

0471

三 日本は確たる信念を持つて

斯る状態を日本として黙つて見て居る譯には行かない。のみならず日本としては支那に對する一つの確たる信念を持つてなければならぬのではないか。實は私は十年一日の如く此の事を叫んで來たのであるが、之が私の見誤りであれば幸ひである。併し今日までのところ日本政府には、どうすると云ふ事が出來てゐないやうである。日本は東亞の安定勢力であると自認して居る。果して然らば、この

東亞と云ふカンパスに繪を描かうとする作者は日本でなければならぬ。支那はどうなるかと云ふことばかりを考へて居つたのが日本であつたと思ふ。例へば西安事件に對しても總てを新聞の雜報的に見て來たのであるが、之ではいけない。私が擧げた四つの中の第二に於て、英國が數年前からやつて居る事を比較的詳しく述べたのは此の爲である。若し日本が眞に東亞の盟主であるならば、ブラッシユを執つて如何なる繪をカンパスに描くかといふことは自ら決めて置かなければならぬ。色も變るであらうし形も變るであらうが、とにかく東亞のカンパスに描き出す意思は決まつてゐなければならぬ。之が決まつてゐないから、外國から敵められもすれば、勃興せんとする廣東精神に驚かざるを得なくなるのである。之が、第一線の並境に居つて十有一年苦難を嘗めて、方々に手傷足傷を受けを私の偽らざる感想である。

支那をどうするかと云ふことが決まらざる限り、ひとり支那問題

が決まらぬのみか、日本の内政も決まらぬと私は思ふ。昨年歸つて來た時に私が廣田首相に對して「支那の問題は今や内政問題化した」と言ふを意味は、日本の内政問題と支那問題とは東亞問題に於て相関關係に在る。而して茲に日本の一大缺陷があり一大瘡があると云ふことを痛感した。

斯かる點から觀察すれば、支那問題は無論一内題や二三内題の功名に依つて決まるやうな簡單な問題ではない。支那問題に携はる者は、功名手柄の立つ時はない。この根源は、日本の社が決まつてゐない所にあるのではないかと云ふことを痛感する。(了)

0473

0472